

## 平和という当たり前を世界に

今年度、都城市特別特攻隊戦没者慰霊祭に参加させていただくことになりました。これをきっかけに、私は「戦争」と「今の日本・世界」について改めて考えました。

今、私達が住む日本では、戦争はしておらず、平和です。当たり前のように学校へ行き、当たり前のように友達と喋ったり、笑い合ったりできます。ですが、そんな「当たり前のような生活」は実は全く当たり前ではないことに気づきました。

今から78年前、都城から79名の特攻隊員が南の空へ飛び立ちました。その特攻隊員がここ都城へ帰ってくることはなかったそうです。

私は、去年の12月に行われた修学旅行で、長崎県にある長崎原爆資料館を訪れました。長崎原爆資料館には、被爆した方の服や持ち物、被爆した街の様子の写真など、戦争の悲惨さや恐ろしさを伝えるものが沢山ありました。思わず目を塞ぎたくなるような展示物もあり、"二度と戦争をしてはいけない"という被爆者からのメッセージを感じました。長崎に炸裂した原子爆弾一つで沢山の方々が亡くなっています。即死だった方、熱線や放射線によって亡くなられた方、水を求めて亡くなった方、後遺症によって苦しみながら亡くなった方。戦争中を生き残った方々の苦しみや悲しみは、現代を生きる私達がわかるものではありません。そして、特攻隊として、死んでしまう未来を恐れず、日本のために都城から飛び立った特攻隊員の方々。その方々は、今の平和な日本へと導いた勇士だと私は思います。今、私達が空襲を恐れることなく、平和な毎日を過ごしているのは、そんな特攻隊員の方々が自分自身を犠牲にして戦い抜いたからだだと思います。だからこそ今、もう一度、戦争について考えてみるのが大切だと私は思います。

私は、戦争についてももう一度深く考え、今ある「当たり前」が「当たり前」ではないことに気づきました。「当たり前」はそれが「当たり前」ではなくなったときに、初めてその大切さに気がつきます。だからこそ、今ある当たりのありがたみに気づき、感謝することが現代を生きる私達にできることの一つだと私は思います。

去年の2月から、今もなお続いているウクライナ戦争。今私達がこうしている間にも、ウクライナでは悲痛な叫びを上げている方々が沢山いらっしゃいます。一日でも早く、ウクライナに、平和という「当たり前」が戻ってほしいと思います。

戦争は、生きる人々の苦しみや悲しみそのものです。そのような出来事を二度と起こさないよう、現代を生きる私達がもう一度深く考え、これから先の未来を生きる多くの人々に伝えていくべきだと思います。平和という「当たり前」が一日でも早く世界へ広がるよう、今ある「当たり前」を大事に、これからも日々生きていきたいです。

都城市立妻ヶ丘中学校

2年 渡瀬 由那